

令和2年度
自己点検・評価書

佐賀大学
アドミッションセンター

I. アドミッションセンターの目的と概要	3
----------------------	---

II. 領域別評価（組織運営の領域）

観点①	4
観点②	8

III 令和2年度アドミッションセンター報告書（添付資料）

I アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下、「センター」と略記）は、平成19年9月19日付のセンター要項に基づき同年10月1日に設置された。センター長（併任：1名）、専任教員（1名）及び特任講師（1名：平成28年度より着任）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

（新）

【目的】

センターは、入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
5. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は、年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では、「令和2年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし、点検および評価を行う。以下、同報告書は、「報告書」と略記する。

Ⅱ 領域別評価（組織運営の領域）

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1 入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■ 佐賀大学版 CBT の開発と実施

佐賀大学版 CBT は，理工学部及び農学部の学校推薦型選抜 I において「基礎学力・学習力テスト」，教育学部（英語分野）の総合型選抜 I において英語のスピーキングとリスニングの評価するテスト，理工学部（化学分野）の総合型選抜 I において実験の映像をもとに観察に基づく思考力等を評価するテスト，農学部（国際・地域マネジメントコース）の総合型選抜 I において英語の動画を材料としたテストを行っている。さらに，経済学部の学校推薦型入試 I，芸術地域デザイン学部の医学部（看護学科）の編入学試験において CBT を導入することを決定し，公表した。

■ 特色加点制度の実施

2021 年度入試では，教育学部，芸術地域デザイン学部（地域デザインコース），経済学部に特色加点制度を導入し，実施した。これにより，医学部を除くすべての学部の一般入試において，これにより，全学部，全入試区分における多面的・総合的評価を実現し，中期計画を達成することができた。

■ 電子書類審査システムの運用と機能強化

特色加点制度を円滑に実施する電子書類審査システム（J-Bridge System）を 2019 年度入試から運用している。前年度入試の改善点を踏まえ，2021 年度入試に向けて改善した。また，総合型選抜，学校推薦型選抜にも拡大し，すべての入試区分で利用する状況となった。さらに，「文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業主体性等分野実証事業」の協力大学として大学改革の推進に貢献した。

■ 英語外部検定試験の改善

2021 年度入試の英語外部検定試験利用制度が見送られたことにより，従来から実施している本学独自の英語外部検定試験の活用を継続し，これまでの検証を踏まえてスコア換算を見直した。

■ 後期日程における受験座席の効率化配置

分離分割方式で後期日程を実施する場合，高い欠席率によって多くの空席が生じる。そのため，必ずしも効率的とはいえない試験運用を長年にわたり実施してきた。この課題を解決するために，インターネット出願によって電子化された受験者情報を活用して，受付順配席方式による試験運営を実現した。その結果，試験室数は 20 室の削減（前年度比 57.4%），座席総数は 1,224 席の削

減（前年度比 54.5%）、試験監督者数は 44 名の削減（前年度比 72.8%）、試験運営をサポートする事務職員数は 25 名の削減（前年度比 43.2%）となり、実施体制が大幅に効率化され、学内関係者からも高い評価が得られた。この取り組みは、ICTを活用して既存の試験運用に変革をもたらしたという点において、大学入試のDXとして捉えることができる。

（分析結果とその根拠）

佐賀大学版CBTの3タイプの試験が着実に実施されている。これに加え、経済学部推薦入試、芸術地域デザイン学部の医学部（看護学科）の編入学試験においてCBTを新たに導入することが決定され、すべての学部においてCBTが実施されることになった。また、特色加点制度が医学部を除くすべての学部の一般選抜で導入されたことで、全学部、全入試区分における多面的・総合的評価を実現し、中期計画を達成することができた。さらに、後期日程の課題であった多数の欠席者による非効率な試験運用について、インターネット出願によって電子化された受験者情報を活用して、受付順配席方式による試験運営を実現した。この取り組みは、ICTを活用して既存の試験運用に変革をもたらした点において、大学入試のDXとして捉えることができる。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。

観点①-2 入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

（観点到に係る状況）

- 各種説明会等の実施
 - 受験産業等が主催する進学説明会（「報告書」 p.119）
 - 高校や予備校等で実施する大学説明会（「報告書」 p.119-121）
 - 高校からの大学訪問において実施する説明会（コロナのため実施なし）
 - 九州地区国立大学合同説明会（コロナのため実施なし）
 - 高校教員対象の入試説明会（「報告書」 p.121）
- オープンキャンパスの企画・実施（「報告書」 p.122）
- 佐賀大学案内冊子の編集（「報告書」 p.122）
- 入試直前説明会（コロナのため実施なし）
- ジョイントセミナーの管理・運営（「報告書」 pp.123-124）
- 継続・育成型の高大連携カリキュラムの開発・実施：（「報告書」 pp.125-126）
- きめ細やかな高校訪問（「報告書」 pp.62-91）

(分析結果とその根拠)

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響を受けたことにより、例年実施していた対面型の広報活動を見直すことになった。例えば、オープンキャンパスやジョイントセミナーは、オンラインを活用した実施方法に移行することになった。こうした変化の中で、オンラインを有効に活用する広報活動の在り方も明らかになり、ポストコロナに向けた新たなアプローチを検討することができた。一方、「とびらプロジェクト」の効果検証として、県内の高校教員を対象としたアンケート調査を行ったところ、とても高い評価を得ることができた。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

観点①-3 入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

(観点に係る状況)

令和2年度は、以下の調査研究を行った(「報告書」を参照)。

- ① 令和2年度一般入試における志願動向分析(入学試験委員会で報告)
- ② 令和2年度一般入試結果の検証
- ③ 令和2年度入学者アンケート調査実施・分析(コロナ禍のため未実施)
- ④ H28年度入学者の追跡調査
- ⑤ 令和2年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析(コロナ禍のため未実施)
- ⑥ 令和2年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析(コロナ禍のため未実施)
- ⑦ 特色加点申請内容の検証
- ⑧ とびらプロジェクトの効果検証(高校教員向けアンケート)
- ⑨ 高等学校訪問調査

(分析結果とその根拠)

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して、客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができています。さらに、新たに導入した制度の検証なども精力的に行っている。

以上のことから入学者選抜に関する調査研究の業務が十分に遂行できていると判断できる。今後も、入試制度や高大接続事業関連の改善に資する調査研究が実施されることが期待される。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点到に係わる状況)

運営委員会は、「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第14条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し、入学者選抜方法に関するもの、広報、高大接続、高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。令和2年度は、運営委員会が1回、入学者選抜方法等専門委員会が4回、広報・高大接続等専門委員会が2回実施された(「報告書」pp.127-128)。各委員会の構成メンバーは、「報告書」(p.129)の通りである。これらの専門委員会の活動を通して、センターの業務が遂行されている。なお、センターの活動等に関するすべての事務は、学務部入試課が行っている。

目的：入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容：

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長、副センター長、専任教員、学部の入試委員
企画委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
入学者選抜方法等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
広報・高大接続等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部から選出された教員、入試課長

(分析結果とその根拠)

定期的かつ必要に応じて運営委員会および専門委員会を開催し、センターの業務を着実に実行していることから、組織運営が十分に行われていると判断できる。